

平成29年度 第3回那珂市行政評価外部評価委員会 要旨

日時：平成29年10月11日（水）午前9時45分～午後4時

場所：那珂市役所本庁舎503会議室

出席者：外部評価委員：伊藤伸 委員長、石渡秀朗 副委員長、山本薫 委員

オブザーバー：中岡才士（構想日本政策スタッフ）

水道課：課長 箕川 覚、課長補佐（総括） 矢崎 忠、

課長補佐（総務G長）秋山 洋一 総務G主幹 石川 美智

会計課：課長 小澤祐一、課長補佐（総括兼出納G長）高島啓子、係長 浅川舞子

議会事務局：次長 清水貴、次長補佐（総務・議事G長）横山 明子

農業委員会事務局：局長 根本実、局長補佐（総括）綿引稔、局長補佐（農地G長）鈴木智洋

事務局：平松行財政改革推進室室長、加藤室長補佐（総括）、金田室長補佐

1 開会

2 市長あいさつ

本年度は昨年度に引き続き、業務点検方式で実施していく。今回の目的でもある業務引き継ぎ資料にも使えるという意味も込めて一緒に考える場になればと考えている。

3 委員長あいさつ

この取組は全国でもめずらしい。対峙するのではなく一緒になって考えていく場になればと捉えていただければと考えている。

4 業務点検 質疑回答意見等

進め方は、1業務1時間以内、担当課から10分程度の説明、その後質疑応答。後に意見提出シートとの提出とする。

(1)水道課 9:45 傍聴8名（副市長、一般0、市職員8）

【主な質疑応答】

- ・委託に関しては、すでに委託している部分があるが、直営で行っている部分もほぼ委託が可能。それに伴うメリット・デメリットが明確でない、スケジュール的にも未確定。
- ・包括委託してもメリットがなければやる意味がない。オール市役所で考えないと費用対効果は出ない。
- ・5年間での最終的な収納率99.9%はすごい。今の徴収方法が理にかなっているからか。次にやることは徴収にかかるコストを出来るだけ落とすこと。
- ・将来の下水道との統合で、私債権と公債権の話があったが、難しい面もあるが併任辞令、条例の作り方で可能性はある。

【委員意見】

- ・今の水道の料金徴収業務をどこまで外部委託化するのか。外部委託化はコストメリットがないという説明だが、何かメリットを説明できない限り、包括委託の意思決定が難しい。
- ・コンビニ収納に関してもコスト意識が必要。コンビニ収納の選択肢はありつつも、低コストである口座引落による徴収割合を78%から如何に伸ばしていくかだ。
- ・ロードマップを書いて、収益をどうあげるか、サービス向上をどうするかを考える。
- ・水道課の一番大きな目的は、市民に対して安全な水を供給すること。持続可能性を追求する必要がある。
- ・将来の下水道事業と統合も含めてどうするか。水道課のみならず、行革、管理職、企画などが、市長に提言するぐらいのことが必要。

(2) 会計課 11:05～ 傍聴5名(副市長、一般0、市職員5)

【質疑応答】

- ・前回からのフローの修正は、所掌業務毎にフロー図を追加した。できないものもあり。
- ・一次審査、二次審査の違いがわからない、明確にやり方をわけた方がよい。
- ・伝票ミスが多い、年間3万3千枚のうち6%のミスがある。ミスの多い課の公表など抑止力につながるのではないか。
- ・部長会議で注意喚起をした、掲示板で留意点を掲載した。

【委員意見】

- ・業務所掌事務についてフロー図を作成して頂き、判り易くなった。
- ・会計課だけでは、業務量が減らない。個々の伝票のきり方、各課のやり方の見直しが必要。
- ・1日平均150件のうちミスが8件。個人ではなく、ミスが多い課を公表すればよい。課の公表ならそれほど影響はないと思う。
- ・適切性のチェックは誰がしているのか。
- ・旅費等の概算払いと精算の仕組みについて柔軟性があってもよい。
- ・支払済印は何のために押すのか。行政としては紙で証拠書類を残すのは分かるが、システムで支払の確認はできる。
- ・備品台帳の記載基準が1万円以上となっているが低すぎるのではないか。
- ・例月現金出納検査、全体を見なくてはいけないのか。
- ・現金払いは付け払いができないもの。例：切手、扶助費(生活保護)

(3) 議会事務局 13:30～ 傍聴5名(副市長、一般2、市職員3)

【質疑応答】

- ・委員会主義で、予算・決算審議も常任委員会で行う。以前は予算・決算特別委員会だったが、専門的に深く審議することが必要だということで、委員会形式となった。
- ・一番時間がかかるのは、議事録作成、議会だより等で全211日中、100日程度費やす。一言一句記録しているが、これはニュアンスの違い等を防ぐため。明確な決まりはない。
- ・全員協議会は、大きな目的は議会がスムーズに運営・進行できるように全議員の共通認識を図ることが目的。
- ・市長に対する総括質疑、予算・決算については、本会議の中で予算概要説明を市長がするので、その時にある。

【委員意見】

- ・全員協議会の開催については、議会事務局が決める話ではないが、議会事務局としても必要性の議論を是非して頂きたい。
- ・予算・決算の審査について、提案者である市長に対する質疑を十分にすることが必要。その仕組みについて議論が必要。
- ・議事録の作成・議会だよりの作成に膨大な時間がかかっているため、効率化を図るべき。
- ・そもそもスムーズな進行という意味はどういうことなんだろうと一度考えて頂きたい。
- ・決算予算は横断的な委員会を持つことによるメリットが大きいと感じる。
- ・ロジ中心の議会事務局から、サブ中心に全国的になっていかななくてはならないと思う。
- ・議会事務局の立場は行政の職員の立場と議会のスタッフという立場があり、それぞれの役割分担をどうするか、線引きが難しい。

(4) 農業委員会事務局 15:10～ 傍聴5名(副市長、一般1、市職員4)

【質疑応答】

- ・農業委員会は農地を確保すること、転用させないのが使命。
- ・高齢者でも担い手になるようにする必要性あり。
- ・農地転用申請件数は増えていない、今後単純に増えていくかは分からない。
- ・自治体によって特徴があるものではないので、件数が目安になる。市民をかなり窓口で持たせると

すれば問題だ。

- ・市独自のシステムと国のシステムと2重で運用している。
- ・転用後のフォローアップはできていないというか、転用後は農地法の権限が及ばない。

【委員意見】

- ・人員不足で窓口でお客様を待たせている状態。本当に人員が足りないなら、それを証明する必要がある。
- ・システムの2重運用について、システム整備のとき、市町村からものを言わなければいけない。今のシステムを使わないとどうなるか検証を試みる必要がある。
- ・社会情勢、就労人口にも目を配る必要があり、今後は農地の集約化が大きな目標になる。
- ・転用は農業政策とセットで、一体化するべきものがある。農政課との連携が今以上に必要だ。

5 その他・閉会

- ・第4回委員会として10月24日（火）午後に市立図書館にて市民向けフォーラムを開催する。参加者予想数は50以上。一般参加者、市長副市長、2、3年目市職員が36名、ほか。
- ・当日の意見交換会は、取り組みのねらいを事務局から説明、後に意見交換。本日の意見シートを資料とする。

以上

